

3 同居家族との相関性

(1) 相関表から

同居家族男女別、配偶者、子どもとの同居の有無と各問いとの相関表を示す。上段が男性、下段が女性である。

相関表で取り上げる問いは、年代別、居住年数と同じである。

相関表Ⅲ (同居家族)

【表71】

| | | 問1(2)地域の 人との付き合い | 問1(3) 地域の人と の面識・交流 | 問1(4) 友人・知人と の付き合い・交流 | 問2(1) 地域の人 は信頼できる か | 問2(2) 一般的に人 は信頼できる か | 問3(1)a 地縁的な活 動 | 問3(1)b グループや サークル活 動 | 問3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動 |
|---------------|---|-----------------------|--------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------|-----------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| ア:配偶者 (男性) | Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数 | .324** .000 316 | .190** .001 315 | -.105 .063 316 | .165** .003 312 | .162** .004 314 | .343** .000 312 | .206** .000 310 | .116* .041 310 |
| イ:子ども (男性) | Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数 | .105 .063 316 | .065 .252 315 | -.174** .002 316 | .131* .021 312 | .106 .061 314 | .213** .000 312 | .080 .160 310 | .090 .112 310 |
| ア:配偶者 (女性) | Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数 | .173** .000 534 | .231** .000 536 | -.167** .000 537 | .057 .187 533 | .114** .009 531 | .191** .000 525 | .180** .000 529 | .046 .298 521 |
| イ:子ども (女性) | Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数 | .200** .000 534 | .170** .000 536 | -.158** .000 537 | -.021 .622 533 | .012 .784 531 | .243** .000 525 | -.030 .498 529 | .002 .961 521 |

**：相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

*：相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

相関表より、Pearson の相関係数から、男性では配偶者との同居の有無と問3(1)a が最も認められ、問1(2)がそれに続く。子どもとの同居の有無では、問3(1)a に相関性が認められる。

女性では配偶者との同居の有無と問1(3)に相関性が認められる。子どもとの同居の有無では、問3(1)a に相関性が認められる。

(2) クロス集計から

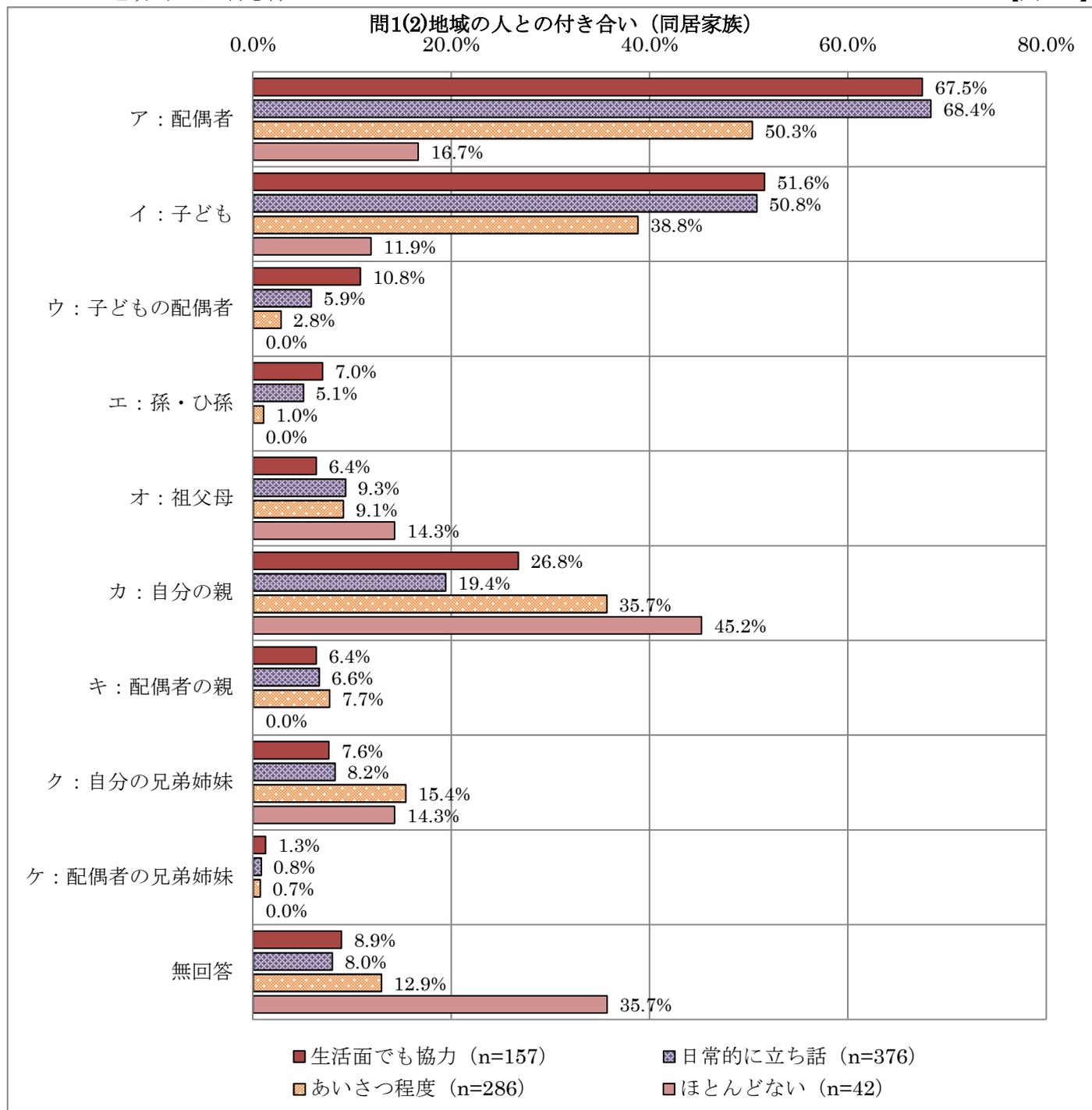
取り上げる問いは、相関から見た相関性の認められるものを中心に、以下の問いとした。

- ・ネットワーク …問 1(2)地域のひととの付き合い、問 1(3)地域のひととの面識・交流
- ・信頼 …問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加 …問 3(1)a 地縁的な活動への参加、問 3(1)c ボランティア・NPO・市民活動への参加

① ネットワーク

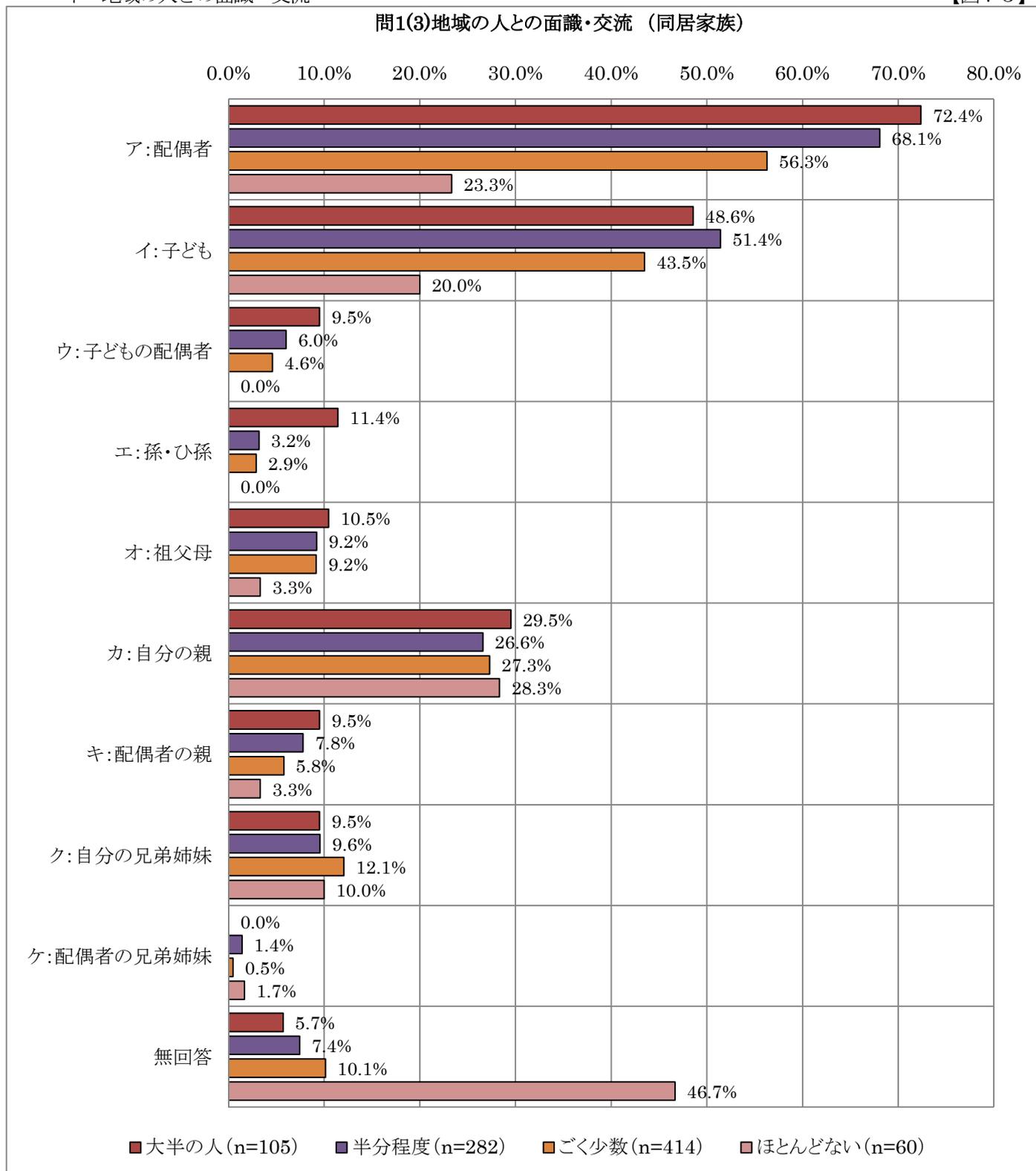
ア 地域のひととの付き合い

【図 7 2】



地域のひととの付き合いについて、同居家族とのクロス集計を行ったグラフである。これを見ると、最も付き合いが深いと考えた「生活面でも協力」していると回答した人は、67.5%が配偶者と同居しており、51.6%は子どもと同居していると回答している。

「ほとんど」付き合いがない人の特徴としては、配偶者との同居は16.7%、子どもとの同居は11.9%であった。また、自分の親との同居では45.2%で、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」と回答した人よりも、高い割合である。さらに、無回答が35.7%となっている、今回の選択肢の中では、独り暮らし・同居していない等がなかったため、それらに該当する回答者は無回答となっている割合も高いと考えられる。



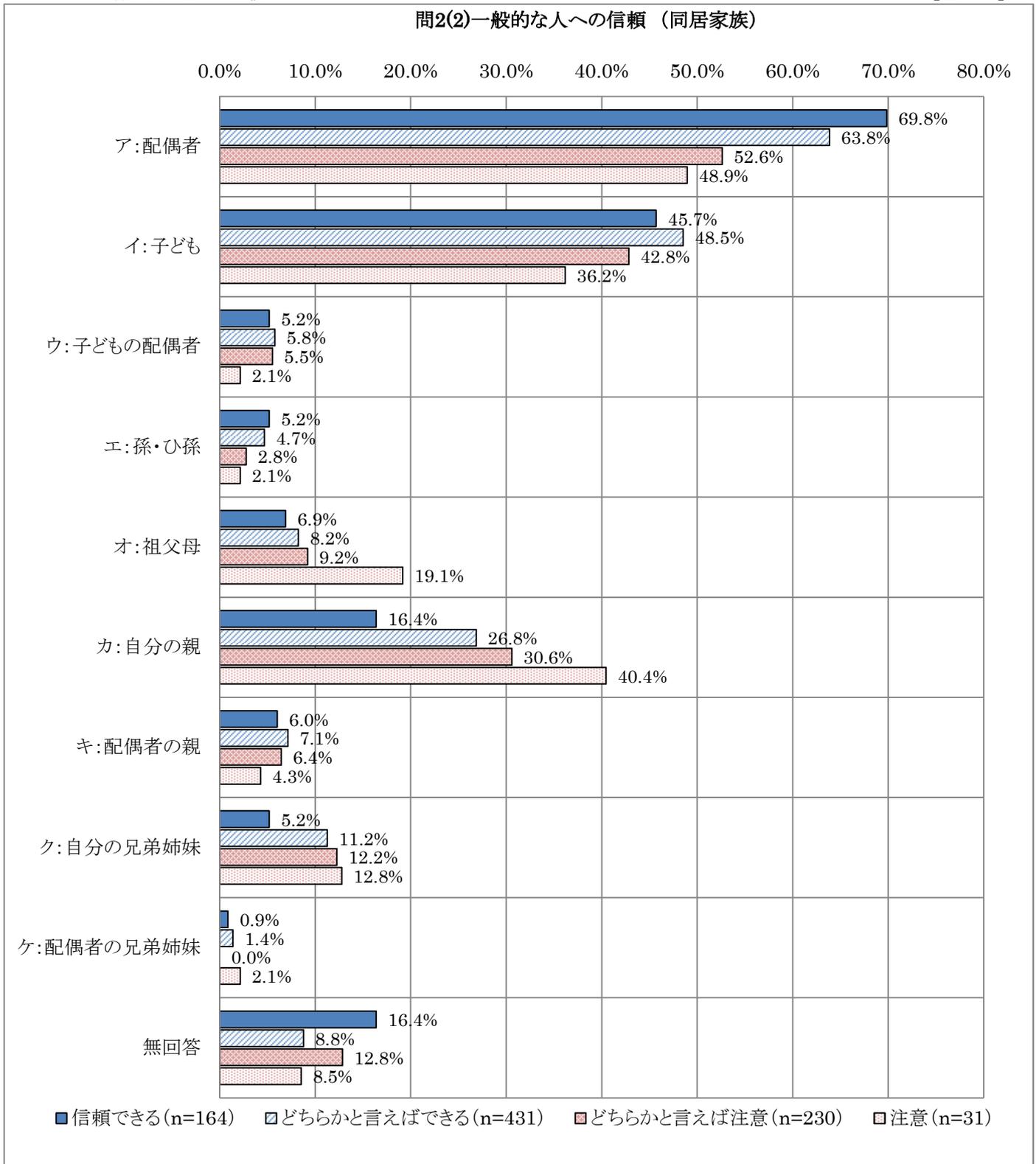
地域の人との面識・交流についても、「大半の人」との付き合いがあると回答した人は72.4%が配偶者との同居、48.6%が子どもとの同居と回答している。それに対して「ほとんどない」と回答した人は、「無回答」が46.7%と半数近くに上っている。

したがって、ネットワークの要素となる人とのつながりを作る要因の1つとして、家族との同居の有無が考えられる。

② 信頼

ア 一般的な人への信頼

【図74】

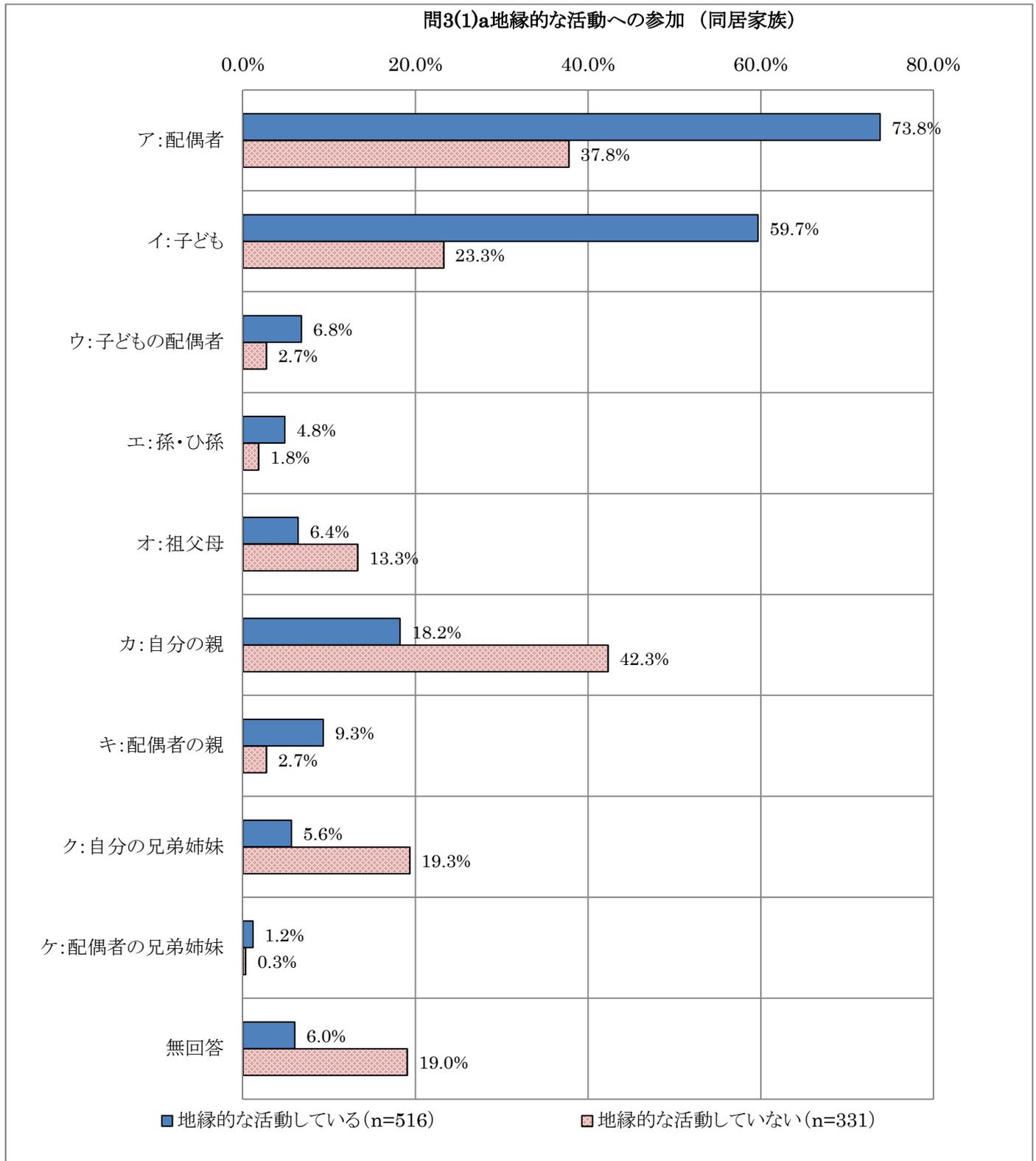


一般的な人への信頼とのクロス集計結果である。「信頼できる」と回答した人のうち、69.8%は配偶者と同居しており、子どもとの同居は45.7%である。「注意」と回答した人では配偶者との同居は48.9%で、子どもとの同居は36.2%で「信頼できる」と比べて低い割合である。また、「注意」と回答した人の40.4%は自分の親と同居していると回答しており、「信頼できる」の16.4%と比べて約2.5倍である。無回答での特徴はあまり見られない。

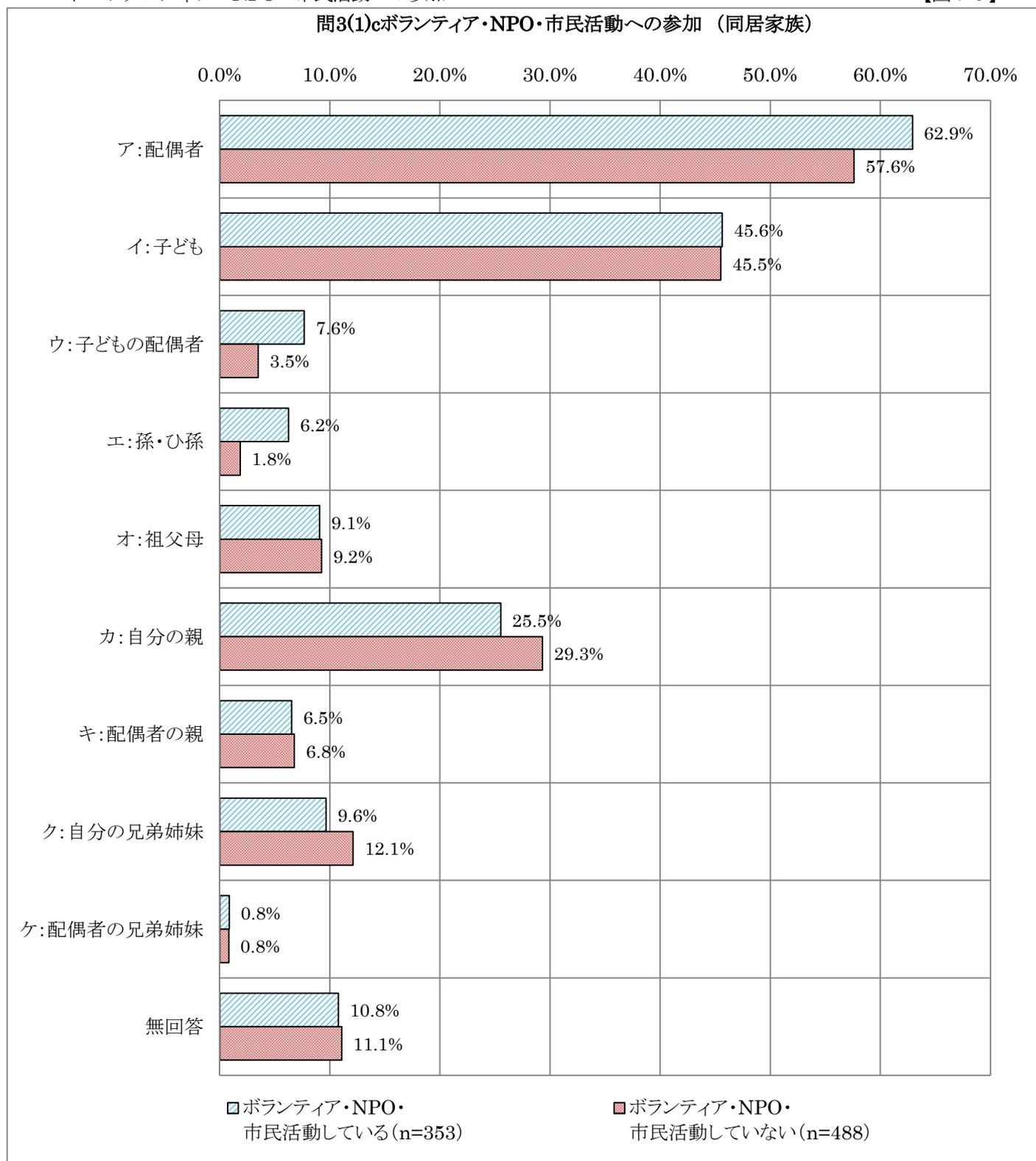
③ 社会参加

ア 地縁的な活動への参加

【図75】



地縁的な活動への参加とのクロス集計結果である。地縁的な活動をしている人では配偶者との同居は73.8%、子どもとの同居は59.7%である。地縁的な活動をしていない人では配偶者との同居は37.8%、子どもとの同居は23.3%でいずれも活動している人を大きく下回っている。また、地縁的な活動をしていない人は自分の親と同居している割合が42.3%で、活動している人の2倍以上である。無回答では地縁的な活動をしていない人が19.0%で、活動をしている人6.0%の3倍以上である。



ボランティア・NPO・市民活動をしている人では、配偶者との同居は62.9%、子どもとの同居は45.6%である。活動をしていない人では配偶者との同居は57.6%、子どもとの同居は45.5%である。配偶者との同居では5.3ポイント、子どもとの同居では0.1ポイント活動している人が上回っているが、これまで取り上げてきた問いと比べるとその差は小さい。